

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	中枢神経系理学療法学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	302 他
担 当 教 員	荒木 将平	実務経験とその関連資格	理学療法士として回復期病院、介護老人保健施設に勤務経験あり。臨床実習指導者の経験もある。			
《授業科目における学習内容》						
神経・筋疾患を主とした中枢神経疾患に対する理学療法の適用に関する知識と技術を学び、問題解決能力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度、課題レポート、筆記試験の総合評価とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
標準理学療法学 神経理学療法学 配布資料						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。授業後、内容の確認をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問等行う。適宜小テストを行う。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経筋疾患の概要、パーキンソン病の病態について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	講義範囲のテキスト箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	神経筋疾患の概要、パーキンソン病の病態			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病の病態と評価について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	講義範囲のテキスト箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	パーキンソン病の病態と評価、運動療法、ADL			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊髄小脳変性症について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	講義範囲のテキスト箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	失調症(脊髄小脳変性症)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ギランバレー症候群について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	講義範囲のテキスト箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	ギランバレー症候群(病態、評価、リスク管理、運動療法、ADL)			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮性側索硬化症の病態、評価について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	講義範囲のテキスト箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	筋萎縮性側索硬化症(病態、評価、リスク管理、運動療法、ADL)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	多発性硬化症の病態と症状、評価について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	講義範囲のテキスト箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	多発性硬化症(病態と症状、評価、リスク管理、運動療法、ADL)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経筋接合部の疾患・筋ジストロフィーについて学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	講義範囲のテキスト箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	神経筋接合部の疾患・筋ジストロフィー(病態と症状、評価、リスク管理、運動療法、ADL)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	その他の神経・筋疾患の病態と症状、評価について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	講義範囲のテキスト箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	その他の神経・筋疾患(病態と症状、評価、リスク管理、運動療法、ADL)		